

A Fanbook of "St.Maria is Watching YOU"

全ての言葉はさよなら

liliane.jp

camera of full kisses

"camera of full kisses"

Published in JAPAN in 2012/08/10
(Comicmarket82)

by liliane.jp, YOKOHAMA, JAPAN
<http://liliane.jp>

Printed and bound in Japan
by Printmouse, TOKYO, JAPAN

Cover Illustration
ととと (ドム御一行)

Texts
C.F.、くわね@まるち、ちろ

Design and DTP Works
くわね@まるち



Photo from "DOCTOR HEAD'S WORLDTOWER".

section 1; 2004 - 2005

" 海へ行くはずじゃなかった "

Summer, 2004

"DOCTER HEAD'S WORLDTOWER"

Summer, 2005

"knife edge caress"

Winter, 2005

"on Pleasure Bent"
Summer, 2006

"The Chime will Ring"
Winter, 2006

"3 a.m. op"
Summer, 2007

"Coffee-Milk Crazy"
Fall, 2007

"星の彼方に "
Winter, 2007

section 2; 2006 - 2007

Photo from "on Pleasure Bent".



十月の台風

2007.10

text C.F

早めに引けた山百合会の片づけを一人薔薇の館でやっていると、がたと階段の扉が動く音がして、それからやあとという猫の鳴き声が聞こえた。

こんな時間に誰だろう。にやあと鳴いたのは野良猫のゴロンタだろうけど、もちろん猫に開けられる大きさの扉ではない。片づけを一休みしてビスケット扉から階段下を覗き込むと、そこにはハンカチで雨粒を払う聖様と、濡れてしまった毛並みを一生懸命整えているゴロンタがいた。

「いやあ雨だねえ」

「雨ですね」

「ちよつと久しぶりにゴロンタと遊んでたらさ、いきなりこの雨だねー」

毛先についた雨粒をハンカチで気にしながら、聖様とゴロンタが階段をとんとんと上がってくる。

「っていうか、台風だったっけ。十月なの」

「台風二十号だそうです。そろそろ十一月ですが」

「乃梨子ちゃん、傘持ってる？」

聖様の横にある傘立てを指差す。そこには私が持ってきた傘が一本だけ刺さってた。

「あちゃ。乃梨子ちゃんのしかないか」

中学校の頃は、部室棟の傘立ては大雨の日でも怠惰な生徒の傘であふれかえっていたけど、薔薇の館では置き傘をする不届き者もない。

「現役時代にここにおいてた傘、卒業前に蓉子に全部持たされたんだよねえ」



若干の違和感が残るけれどもリリアンの先輩であり、志摩子さんの姉でもある聖様を邪険にもできない。手早くお茶をマグカップに入れて聖様の前にだす。出廻らしでも湯たんぽ代わりにになるだろう。

「今日は一人？ 志摩子はどうしたの？」

「志摩子さんはお寺が忙しいので山百合会は早退しました」

もともと三回忌の予定が入ってたところに、お通夜が入っちゃったとか。

私の答えに数回うなずきながら、聖様はマグカップを両手で持って「生き返るー」なんておじさんくさい発言を。祐巳様が聖様の話をする時にいうセクハラ女子大生ってイメージそのままだ。

そして、足元のゴロンタに砕いたクッキーをあげながら、祐巳様や由乃様の妹問題とか三年生の進学の話とかを矢継ぎ早に私に聞いてきた。

由乃様が妹選びで前黄薔薇様と賭けをしたなんて初耳の話に驚いたり、祐巳様と瞳子や可南子さんの話は少し穏便に答えたりとか、こうやって聖様と話していると、聖様が会う人会う人から情報収集してるんだろうなっていうのが良く解る。それは同時にこの人が志摩子さんの姉だと言ふことはさらに解らなくなるって事でもあるんだけど。

「志摩子さんのことは聞かないんですね」

「志摩子は君がいるから大丈夫でしょう？」

聖様はいかにも当然という顔でそんなことを言う。

「それに私に伝えたいことがあれば志摩子は自分から言うからね」

キミもそうでしょう？ そんなことを付け加えて聖様は意味深げに笑った。

片付けは終わってしまふ。最後に聖様の使ったカップを洗いながら、クッキーの粉をゴミ箱の上ではたいてる聖様に聞いた。

「雨、やみました？」

「あー。強くなっちゃってるねえ」

窓の外を覗いた聖様は、駄目だねこれは、とゴロンタに話しかけている。洗い物で使っていた流しの水を止めると、確かにざあざあと屋根を打つ音が聞こえる。

「台風じゃしょうがないか。乃梨子ちゃん悪いんだけど……」

「バスはM駅で良いですか？ その前に一旦職員室に鍵を返しますけど」

「いや、すまないねえ」

すまないもなにも、雨は当分やまないだろうし、仮にも外部の聖様一人を残して帰るわけにもいかない。幸い私の傘は実用一点張りの頑丈で大きめの傘だったけど、この人ぐらいになるとその点も観察済みかもしれない。

私が荷物をまとめて薔薇の館の玄関まで下りていくと、開いた扉の向こうで聖様がゴロンタを床下に放してやっているとこだった。

「ゴロンタ、大丈夫ですか？」

「雨だけのげれば大丈夫。台風ぐらいに負けてたら野良猫はやってけないでしょ」

そんな感じで聖様と話してるうちに、やりかけだった山百合会室の

床下に入ったところで顔を洗っていたゴロンタにまたねと声をかけると、さつきより元気な鳴き声と一緒に尻尾の先が少し揺れた。

「じゃあ、行こうか」

私が薔薇の館の鍵を閉めると、いつの間にか私の傘を開いていた聖様は「鍵を職員室に届けるんだよね」と言って傘をちよつとだけ上げた。

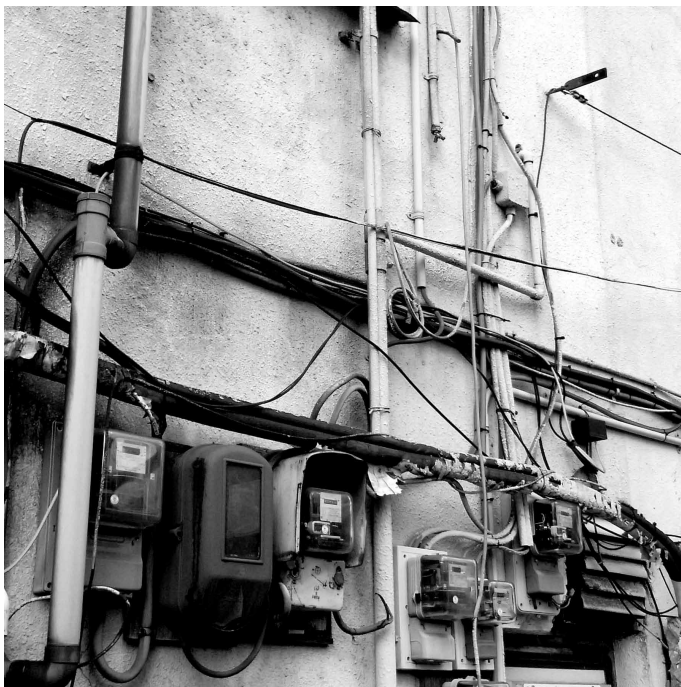


Photo from "Sleep Machine".

section 3; 2008 -

"GOING ZERO"
Winter, 2008

"Sleep Machine"
Summer, 2009

"BLUE SHININ' QUICK STAR"
Winter, 2009

INDEX

Section 1

2004-2005

海へ行くはずじゃなかった／ p.6

1620／ p.9

Newspaper Sisters ／ p.12

like a sister ／ p.14

Steps ／ p.17

Stairway to ／ p.20

Section 2

2006-2007

Neopan 100 ／ p.24

遠雷／ p.26

Roadside ／ p.28

Orion ／ p.31

3 a.m. ／ p.33

休日の昼下がりに／ p.35

十月の台風／ p.39

Homework ／ p.42

Christmas Four ／ p.45

冬のドライブ／ p.47

Section 3

2008-

Club Room ／ p.50

煤払い／ p.53

涼しいところ／ p.56

春休み／ p.59

猫と枕／ p.62

大晦日／ p.65

A Fanbook of "St.Maria is Watching YOU"

全ての言葉はさよなら

liliane.jp

camera of full kisses